

# 巻頭言

## 平成25年度理事長所信表明

武田雅俊 日本精神神経学会理事長  
Masatoshi Takeda

本学会は、本年4月1日をもって公益社団法人になりました。新定款に則り代議員選挙と理事選挙を行い、5月23日の新理事会で理事長に選出されました。これから2年間、理事長を勤めます。本年度の方針を6月16日臨時理事会において表明し、活動を開始しています。会員の皆様のご理解を得て、実現に向けて努力していく所存ですので、よろしくお願いたします。

### 1. 専門医制度の定着と発展

質の高い精神科医を育成することは本学会第一の使命です。専門医制度は、研修プログラムの整合性、サブスペシャリティの設定など大きな課題があります。専門医制度を充実して若い精神科医の知識と技能の向上に結び付ける努力をします。

### 2. 精神科医療を構成する各種団体との協体制の強化

精神科医の多くは、精神科病院、精神科診療所、総合病院で実際の診療活動を担当しており、大学の精神医学教室だけでは十分な医療活動はできません。研究・教育は大学精神医学教室が得意とする領域ではありますが、精神科医療にかかわる全ての精神科医の意見が平等に反映される学会運営を目指します。

### 3. 学会の国際化

札幌大会、福岡大会と英語セッションが設けられ国際的な意見交換がなされています。また、ICD改訂作業にも本学会はWHOと協力してフィールドトライアル、Global Clinical Practice Network構築を担当します。このような国際化をさらに推し進めて、わが国の精神医学が、アジア・世界に向けての情報を発信していく体制を整えます。

### 4. 基幹学会としての本学会の役割

精神医学は間口の広い学問領域ですので、多くの関連学会があります。本学会はその基幹学会としての調整機能を果たすべきと考えています。このことは、専門医制度のサブスペシャリティとも関連しますので、本学会が基幹学会としての役割を果たせるようにいたします。

### 5. 次世代の精神科医の養成

高い水準の精神科医療を継続して提供するためには、次世代の精神科医の養成が必要です。若い世代に精神科の重

要性、意義、面白さを伝えて、今まで以上に優秀な若い世代の多くが精神科医となり、優れた医師に育つよう努力をしたいと思っています。

### 6. 精神医学の研究推進

精神疾患解明が医学・生命科学の重要課題として認められ始めており、本学会でも関連諸学会と連携して「精神医学推進のための提言」を取りまとめ、精神医学研究の重要性を訴えました。このような学術的活動を通じて精神医学・精神医療の発展に貢献します。

### 7. 精神科医療の実態調査と課題を提示するための調査研究活動

地域医療計画に精神疾患が入り、それぞれの地域で適切な精神科医療を提供するための計画が練られていますが、その基礎となる精神科医療の実態調査は十分にはなされていません。精神医学医療情報センターを設置して、このような必要性に応えます。

### 8. 精神科領域の病名・用語に関する活動

本年5月にDSM-5が発表され、2017年にはICD-11の発表が予定されています。すでに、学会の病名検討委員会、用語検討委員会が活動しておりますが、これまでのように日本語訳が乱立することを避けなければなりません。基本的な病名・用語については、本学会を中心としてコンセンサスを得たものになるように意見を集約します。

### 9. 会員の声を反映できる代議員制度の運用

公益法人化により当学会は代議員制度を採り入れました。これまでの会員総会を最高議決機関とするのではなく、選挙により選ばれた代議員による代議員総会が最高議決機関となります。今期の執行部では、代議員制度の問題と課題とを明らかにして、会員の声が十分に反映されるように努力します。

### 10. 会員・代議員会・理事会の情報共有体制の確立

当学会は情報のオンライン化を進め会員の利便性向上に努めて参りました。ホームページのデザインを新しくし、インターネットを介した会員サービスを整え、重要な事項はメールにより各会員に伝えています。インターネットを活用した情報の共有化を推進します。